

2024年10月01日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【自民党総裁選挙から、総選挙へ】

先週末(2024年9月27日)の自民党総裁選挙で、高市氏と石破氏の決戦投票になると、高市氏有利ならば、金融緩和の思惑で、ドル/円は急上昇した。

しかし、石破氏の勝利が確定すると、ドル/円は、大きく急落した。

++++
++++

日本の一般的な選挙が、外国為替市場に大きく影響することは少ないのだが、今回の自民党総裁選挙は、大いに注目されていた、と言える。

上述の日本の一般的な選挙とは、衆院選挙や参院選挙、都知事選挙などの重要な選挙を指すのだが、今回の自民党総裁選挙は、事実上の総理大臣を決める選挙なので、重要な選挙と考えて良いのだろう。

そして、高市氏が総理大臣になれば、高市氏は、安倍元総理大臣の政策を継承するのだろう、と推測できるから、金融緩和的な政策を採るのだろう、といった思惑も理解できる。

安倍政権は、日銀が金融緩和策を採るように誘導した、と言っても過言ではない、と考えます。

だから、先週末(2024年9月27日)の自民党総裁選挙の決戦投票直前に、高市氏有利と判断した市場参加者が、金融緩和の思惑を持ったことも十分に理解できます。

++++
++++

しかしながら、金融政策に、政権が過剰に介入することは、金融政策の独立性を考慮すると、決して好ましくは無い、と考えます。

そもそも、旧安倍政権での金融緩和策が良かったのか、悪かったのか、検証もされないまま、現在に至っていることも、好ましく無い、と考えています。

++++
++++

いずれにせよ、高市氏は決戦投票で敗れ、石破氏が勝利したことで、上述の思惑は、大きく外れてしまったのだから、今後は、石破氏が、総理大臣就任以降に、どういった政策を採るのか、に注目すべきなのは当然のことでしょう。

++++
++++

石破氏は、総理大臣の就任前に、衆院解散と総選挙の日程（10月27日投開票）を発表しました。

異例の対応と言えますが、総理大臣に就任することが確実になった時点での発言なので、百歩譲って、仕方が無い、と考えます。

むしろ、この総選挙（10月27日投開票）で、自公政権が維持されるのか、それとも政権交代があるのか、国民が、どういった判断をするのか、大いに注目しています。

++++
++++

（2024年10月01日東京時間15：25記述）